



精神分析入門

文学部文学科一年 松本 啓

本書の概要

I 著者紹介

II 錯誤行為

III 神経症とその治療法について

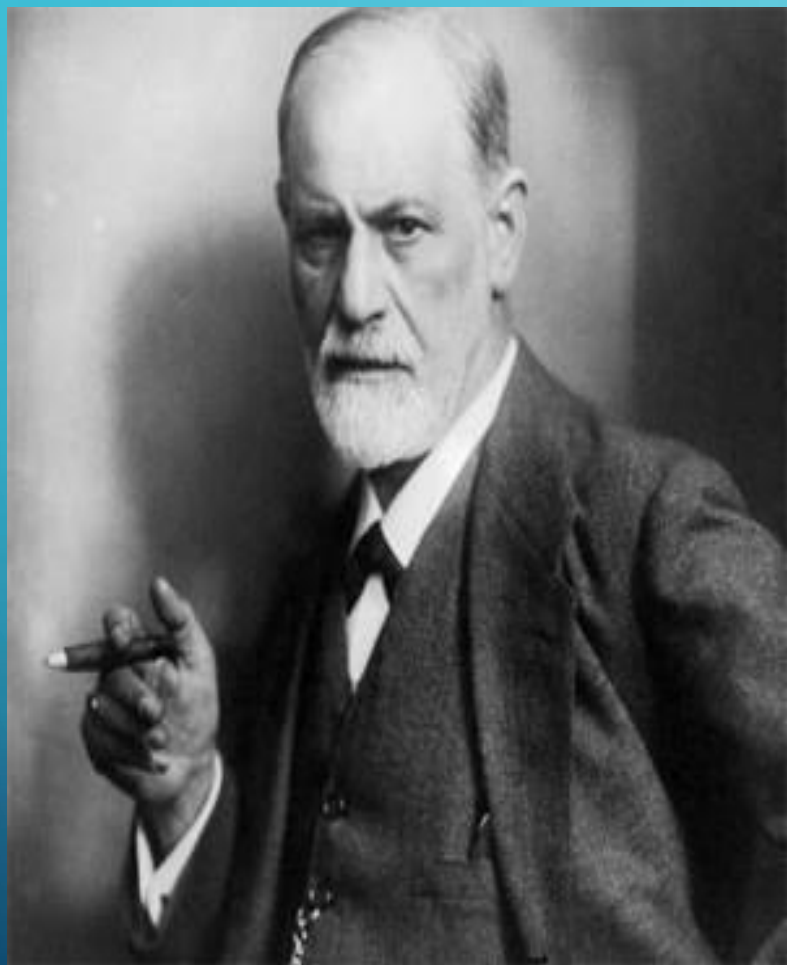
III-I 強迫神経症と転換ヒストリー

III-II 夢の分析

III-III 治療法

IV 補足「続・精神分析入門」

I 著者紹介



・ジークムント・フロイト

- ・1856年オーストリアで生まれる。
- ・神経病理学者を経て精神科医となり、神経症研究、心的外傷論研究、自由連想法、無意識研究、精神分析の創始を行う。
- ・著書に「夢判断」、「ヒストリー研究」、「精神分析入門」など
- ・1939年にロンドンにて死亡。

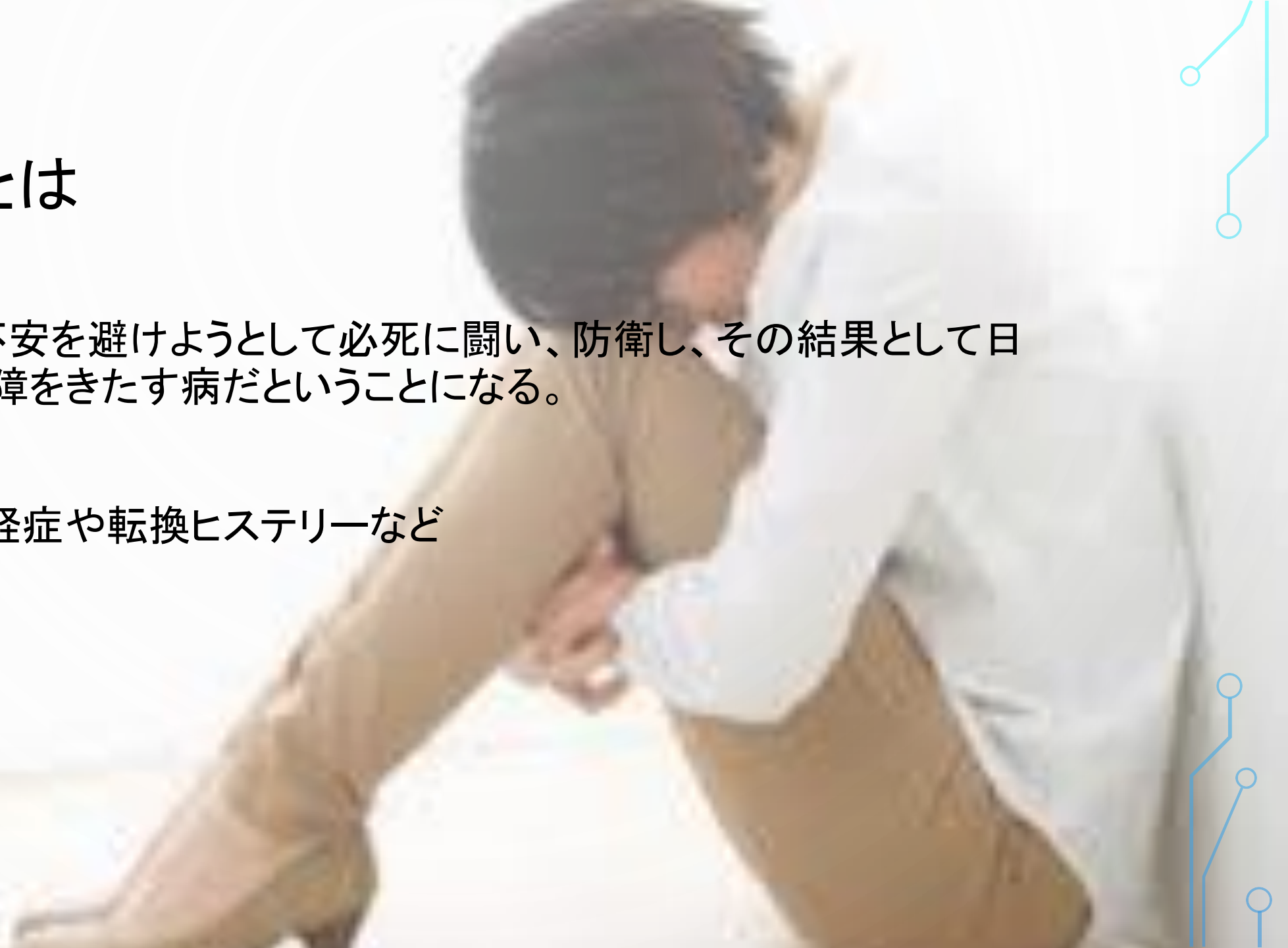
本書が書かれた目的

第一次世界大戦中の講義を元にフロイトが神経症の治療方法を大衆に啓蒙するために書かれた

神経症とは

漠然とした不安を避けようとして必死に闘い、防衛し、その結果として日常生活に支障をきたす病だということになる。

例．強迫神経症や転換ヒステリーなど



Ⅱ 錯誤行為(言い間違い)

では精神分析なのになぜ錯誤行為から始まるのか？



- ①神経症も錯誤行為も原因として本人には意識できない無意識な心の働きを共通点として持っている。
- ②みなさんになじみの深い錯誤行為から入ったほうがスムーズに精神分析を理解してもらうことを狙ったため

フロイトは錯誤行為の中でも言い間違いを取り上げて言及している。
それでは言い間違いにはどのようなものであるのか？



本来の自分の意思とは反対の言動が出てしまうこと



例.衆議院議長が第一声で開会を宣言する代わりに閉会を宣言してしまった。

このことは衆議院議長が議会の形勢が思わしくないために、できることならすぐに閉会してしまいたいと無意識に思っていたことを表している。



つまり、言い間違いは異なった二つの意図(意識と無意識)が衝突し、干渉しあうことによって起きている。

フロイトは無意識とは、抑圧されていて原則的に意識化できない心の部分であると述べた。

- また無意識の中には受け入れがたい、思い出したくない感情や観念も入っていると述べている。



- 例えば先の衆議院議長の例では「開会を宣言したい」という意識が、「閉会を宣言したい」という無意識に妨げられ、この二つはお互いに反対の意味を持っている。

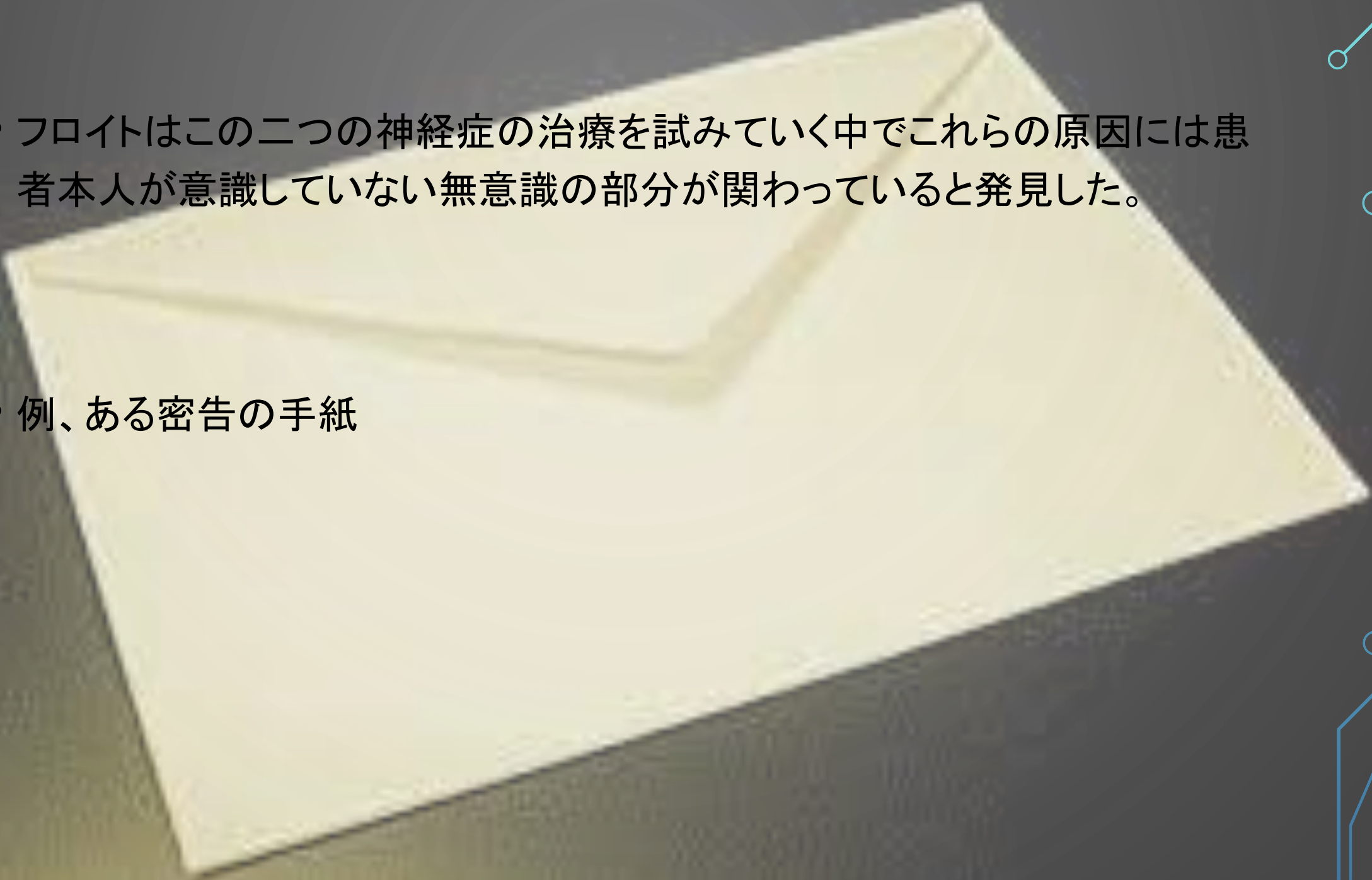
- フロイトは錯誤行為の原因を考察したうえで行為の背景にはある二つの意図(意識と無意識)の衝突が存在しており、たとえ本人がその衝突を自覚していなくても、必ず存在すると指摘している。このことから原因が不明とされた不安神経症に対しても必ず意識できていない原因(無意識)が存在していると述べている。

Ⅲ 神経症とその治療法

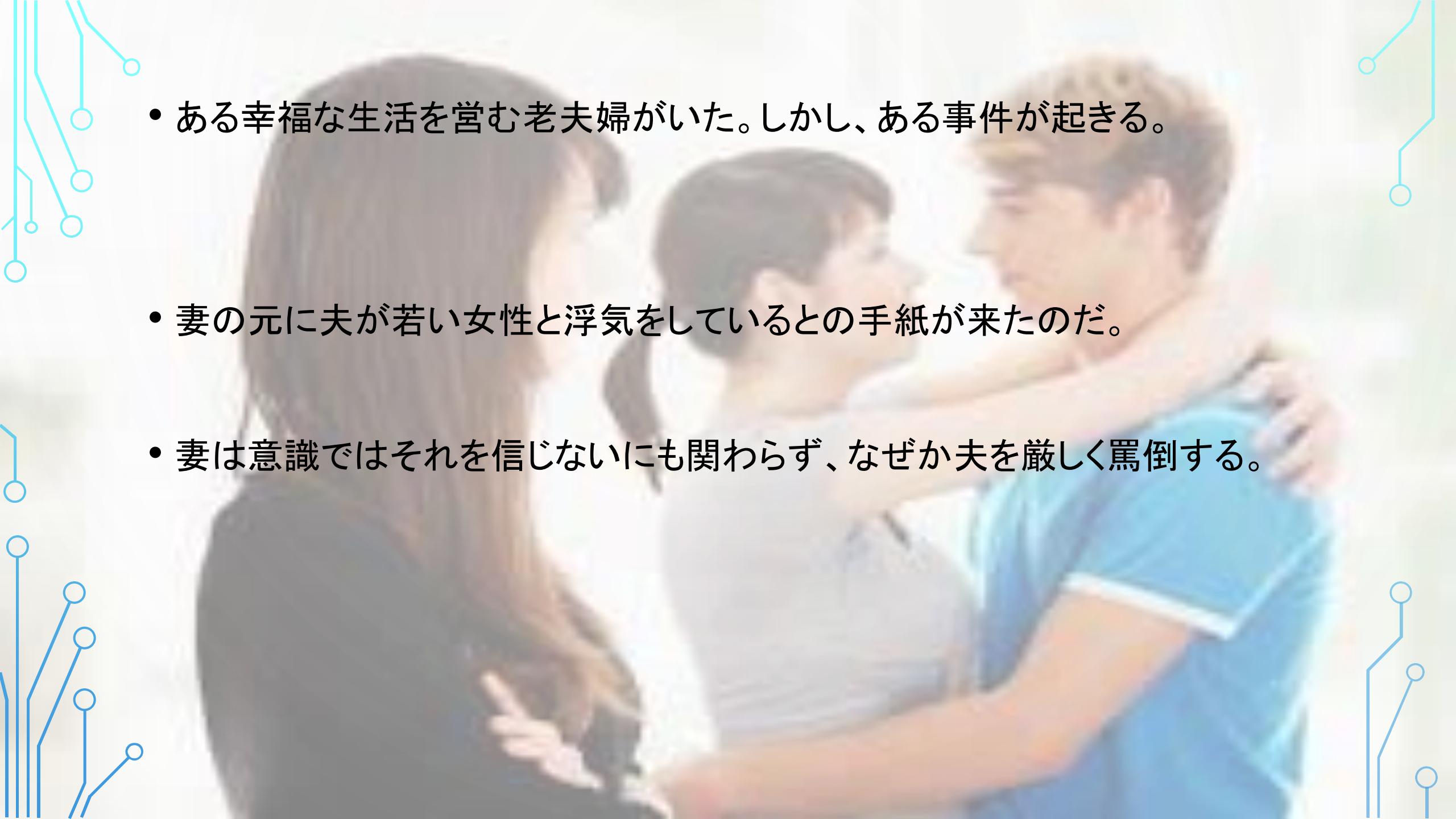


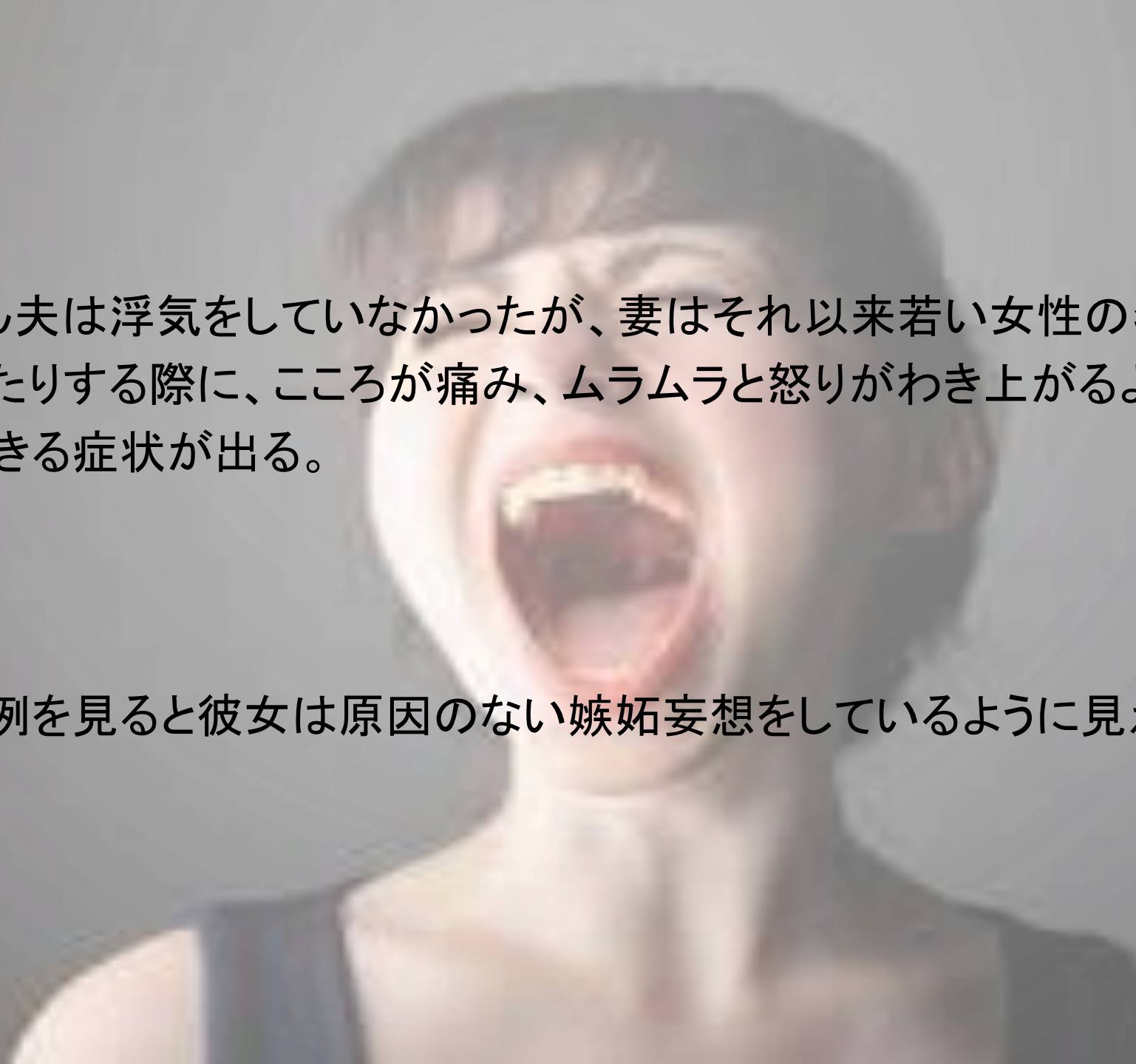
Ⅲ - I 強迫神経症と転換ヒステリー

- フロイトは神経症の中でも強迫神経症と転換ヒステリーの二つを中心に解説している。
- 強迫神経症とはある衝動を繰り返すのだが本人には何が原因なのか分からない症状。
- 転換ヒステリーとは心の問題が体の症状となって表れるもので何故体の症状になるのかは謎に包まれている。

- 
- フロイトはこの二つの神経症の治療を試みていく中でこれらの原因には患者本人が意識していない無意識の部分が関わっていると発見した。

- 例、ある密告の手紙

- 
- ある幸福な生活を営む老夫婦がいた。しかし、ある事件が起きる。
 - 妻の元に夫が若い女性と浮気をしているとの手紙が来たのだ。
 - 妻は意識ではそれを信じないにも関わらず、なぜか夫を厳しく罵倒する。

- 
- もちろん夫は浮気をしていなかったが、妻はそれ以来若い女性の名前を街で聞いたりする際に、こころが痛み、ムラムラと怒りがわき上がるような発作が起きる症状が出る。

これらの例を見ると彼女は原因のない嫉妬妄想をしているように見える。



しかし精神分析から見ると妻は意識では夫が浮気をしていないとは分かっているが無意識では夫に浮気をしてほしいと望んでいる。

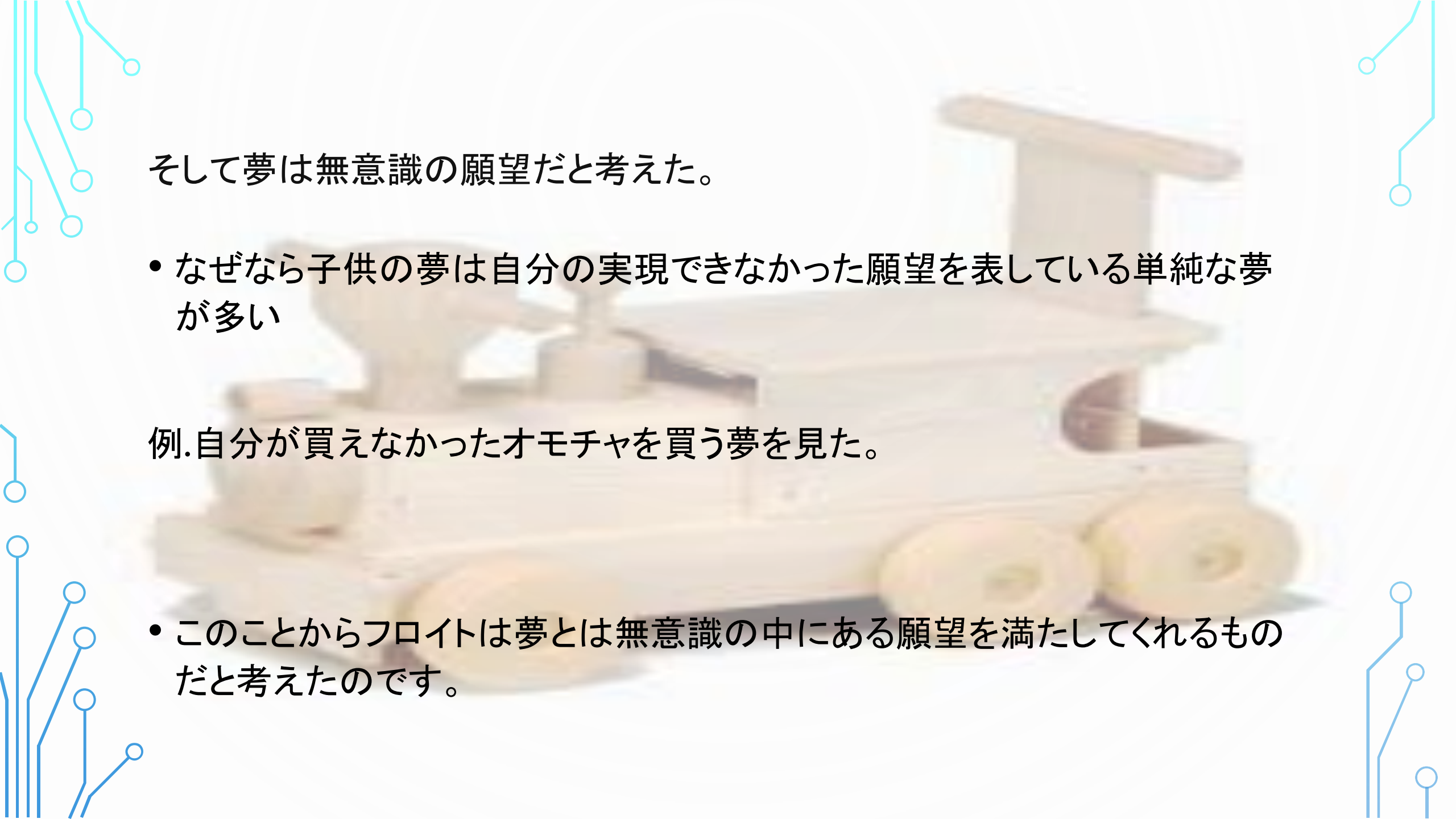


つまり妻は娘婿に無意識な恋愛感情を抱いており、良心の呵責を軽くするために夫の不貞を空想することで自身の罪深さを軽くしようと考えたのです。

- フロイトはこの患者の精神分析から神経症とは願望が無意識へと抑圧されて別の形で表れることに気付きました。
- そして神経症の患者を治療するには神経症の原因となっている無意識を意識に引き上げ患者に自覚させることが必要と考えた。
- そしてそのための手段として夢の分析を編み出した。

Ⅲ-Ⅱ 夢の分析

- フロイトは夢とは、睡眠による意識の遮断そして外部または内部の刺激によって無意識(潜在意識)の願望が、顕在化する視覚像であると述べた。



そして夢は無意識の願望だと考えた。

- なぜなら子供の夢は自分の実現できなかった願望を表している単純な夢が多い

例.自分が買えなかったおもちゃを買う夢を見た。

- このことからフロイトは夢とは無意識の中にある願望を満たしてくれるものだと考えたのです。

- しかし、大人の見る夢には支離滅裂なものが多く、非現実な夢ばかりが多い。
- 例.時間的に不連続で、論理的な整合性をもたない。ついさっきまで日本にいたのに、次の瞬間には外国にいたりなど

フロイト曰く夢が支離滅裂なのは無意識(潜在思考)の願望が夢になる際に自らを抑圧(検閲)しているからであると述べた。

無意識(潜在思考)の願望が夢としてそのまま表れることは本人にとって倫理的・美的・社会的に見て全く非難に値する意向、利己的であり性的に禁じられた欲求であり不都合であるため

例.先の密告の手紙の女性の恋愛事情

- そこでフロイトは夢の解釈には象徴関係に関する理解が欠かせないと考えた。ここでいう象徴とは無意識の願望が抑圧(検閲)によって姿を変え夢に出てくることである。

- 象徴関係について理解することで、夢から逆に辿って無意識(潜在思考)の願望を解釈することができる。
- 象徴の例. 水は出産を表す。コウノトリなど
家は人間を表す。肛門など

- 例えばある男性の夢では男性が二人の見知らぬ人物と歩いていた際、急に二人がいなくなり、突然現れた幽霊のような電報配達人と会話して先へ向かっていった。
- このことは象徴関係によれば二人の見知らぬ人物とは男性のごく身近な人を指し、男性の二人の兄と解釈できる。

また、電報配達人とは不幸の便りをもたらすものだと言われ、このことからこの男性は無意識の願望では二人の兄の死を願っているのだと言徴関係を使えば理解する事が出来るのだと言われた。

このようにしてフロイトは夢から無意識(潜在思考)の願望を解釈できた。

Ⅲ-Ⅲ 治療法

フロイトの言う治療法とは患者が自身の無意識(潜在思考)の願望を自覚し、向き合うことで付き合い方を考えること



その結果、自我は強化され患者の神経症は治療される。

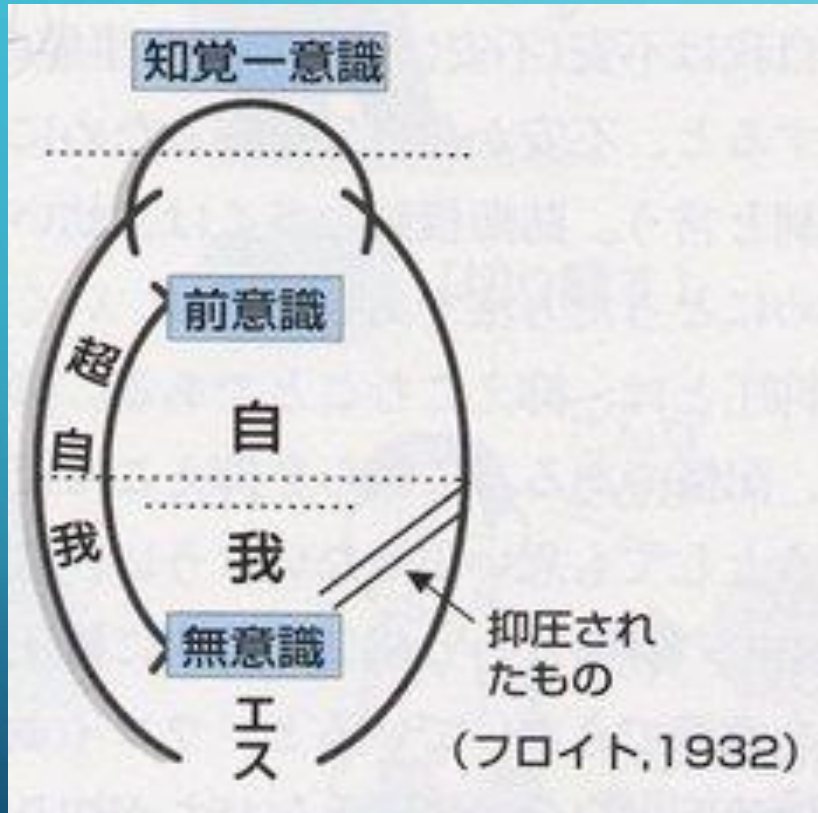
補足「続・精神分析入門」

- フロイトはこれまでの治療を通して意識、無意識の概念に加え新しい概念を確立する。

それがエス、自我、超自我である。

- 自我とは人間にとって最も固有的な所有物であり主体である。
- 超自我(良心)とは自我の一部であるが自我からある程度独立しており、道徳を持ち出して、道徳的に自我を非難する。抑圧の本人でもある。
- エスとは性欲や食欲などの人間の本能の部分、エネルギーに満ち溢れている。

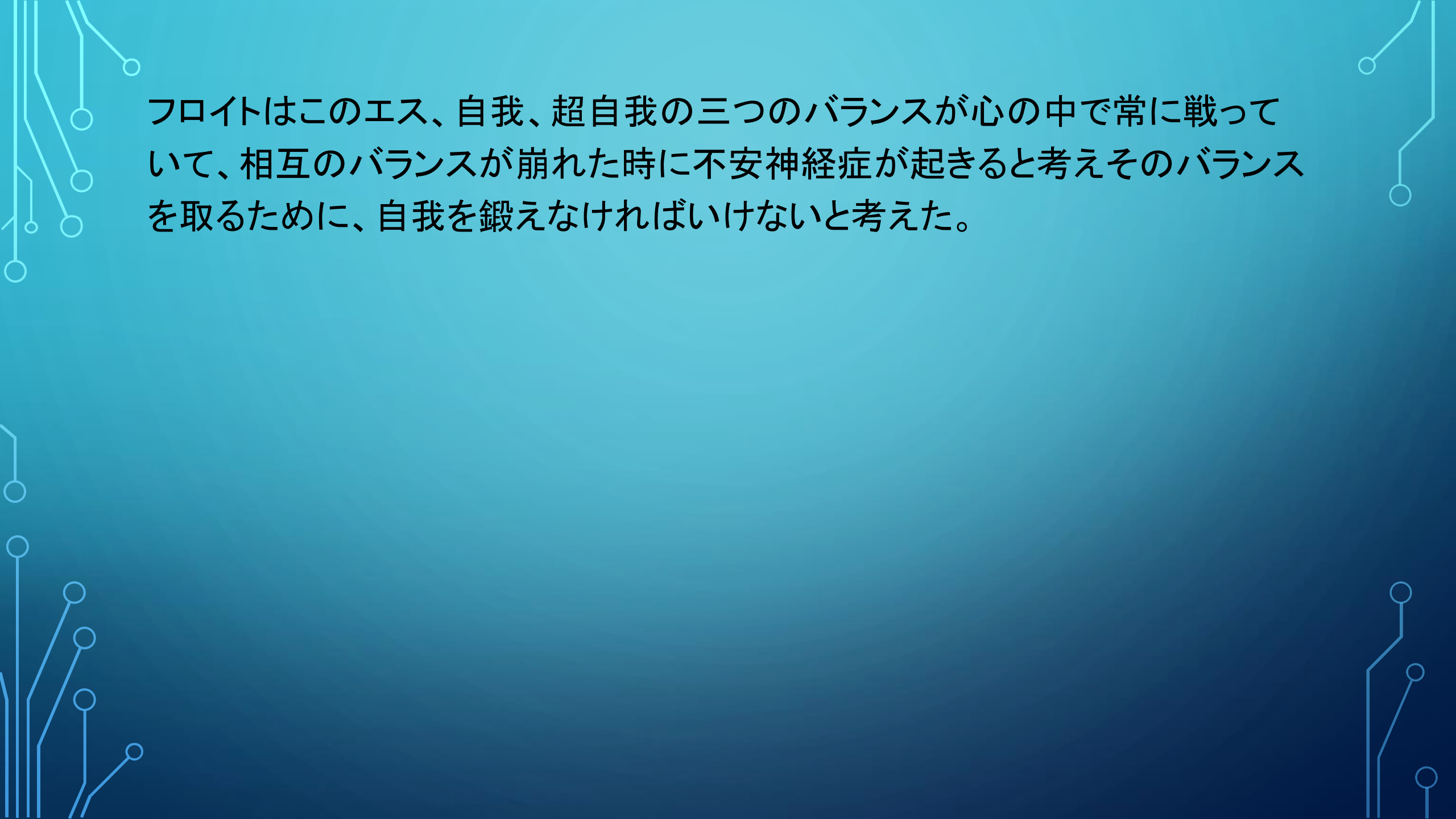
図 I .フロイトの構造論モデル



エス→性欲や攻撃性といった動物的な本能

自我→人間的な理性や知能を司る

超自我→親や社会から植え付けられた道德観や価値観

The background is a solid blue gradient. In the corners, there are white line art illustrations of circuit boards or neural networks, with lines connecting to small circles.

フロイトはこのエス、自我、超自我の三つのバランスが心の中で常に戦っていて、相互のバランスが崩れた時に不安神経症が起きると考えそのバランスを取るために、自我を鍛えなければいけないと考えた。

ご清聴ありがとうございました